

## 主 文

本件上告を棄却する。

## 理 由

弁護人新原一世、同田口公丈、同浜口卯一連名の上告趣意のうち、違憲（三七条一項違反）をいう点は、記録上認められる本件第一審および原審の訴訟の経過に徴すれば、本件第一審および原審の審判が迅速を欠いたということとはできないから、所論は前提を欠き、その余は、事実誤認、量刑不当の主張であつて、いずれも刑訴法四〇五条の上告理由にあたらぬ。また、記録を調べても、同法四一條を適用すべきものとは認められない。

よつて、同法四一條、三八六条一項三号により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり決定する。

昭和四八年十一月一日

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	関	根	小	郷
裁判官	天	野	武	一
裁判官	坂	本	吉	勝
裁判官	江	里	口	清
裁判官	高	辻	正	己